

Vol.85
2024.6.2

広報うつのみやの水道・下水道

私たちの くらしと水

Kurashi to MIZU



上下水道アンケート実施中！
回答はこちらから ▶

上下水道通年型アンケート 検索



アンケートを通していただいたご意見は、広報紙の紙面作成時に
反映させるなど、今後の広報活動等に活用していきます。



【特集】
水と防災

Quiz

しずかごぜん
静御前が手鏡を
落としたのは？

①亀井 ②鏡が池 ③明神

正解の数字を答えてね！
応募方法はP2へ

古の水の面影をもとめて
宇都宮「水」の歴史散歩

[特集]

古の水の面影をもとめて 宇都宮「水」の歴史散歩

平安時代の頃、宇都宮の中心街は湧き水が豊富な湿地帯で、「池邊郷」と呼ばれていました。江戸時代には「七木七水八河原」と呼ばれる7カ所の名木・名水の湧き出る井戸、8カ所の河岸（船積場）があり、豊かな水が人々の生活を支え、潤っていました。ほかにも市内には、かつてそこに水場があったことを示す塚や伝説が点在しています。

今では失われてしまった水場も含め、水の面影を辿る歴史散歩に出かけてみませんか。

私が
ご案内
します



水先案内人
宇都宮市文化財ボランティア協議会
大塚雅之さん



上下水道局の
近くから出発!
よろしく
お願いします!

pickupスポット①

亀井の水

(宇都宮市下河原1丁目1番32号)

「宇都宮七水」の一つで、今では水が枯れ、水道水が流れています。

鎌倉時代、奥州に逃げた源義経を追っしずかごぜんてこの地へやってきた静御前が、二荒山神社を目前にのどの渇きを訴え、水を求めました。そこでお供の亀井六郎が神仏に祈り、持っていた槍を深く地面に突き刺すと水が溢れ出し、これを飲んだ静御前は元気を取り戻したといわれています。「亀井の水」の名前の由来は亀井六郎とも、宇都宮城の別名「亀ヶ丘城」からきているともいわれています。



pickupスポット②

鏡が池跡

(宇都宮市馬場通り2丁目3番1号)

二荒山神社前にある商業施設の駐輪場に石碑があり、ここにも静御前の伝説が残ります。

静御前が二荒山神社にお参りするため、「鏡が池」で手を洗おうとしたところ、池の中に鏡が落ちてしまいました。水底深くに沈んだ鏡を静御前は諦め、その場を立ち去りました。その後、池で釣りをしていた子供が鏡を釣り上げ、二荒山神社へ奉納したことで、「鏡が池」と呼ばれるようになったといわれています。



宇都宮に
静御前の伝説が
あるなんて
ビックリ



pickupスポット③

明神の井

(宇都宮市馬場通り 二荒山神社境内)

二荒山神社の御殿に向かって左手、御神庫の横にあります。「宇都宮七水」の一つで今も清らかな水が湧き出しています。井戸が深くて水質が良く、七水の中では随一といわれるほどです。明治天皇行幸の折、茶湯としてお茶をお出ししたところ、お褒めの言葉を頂戴したそうです。この水を使うと、書道が上達するという言い伝えがあります。



プレゼント
クイズ



表紙クイズの答えと本紙へのご意見・ご感想などを、はがきまたは応募フォームでお寄せください。

抽選で30名様に「上下水道オリジナルグッズ」&「泉水」をプレゼント!

応募期間 令和6年6月2日(日)～令和6年7月5日(金)

はがき(消印有効)

Web

〒320-8543宇都宮市河原町1番41号
宇都宮市上下水道局 経営企画課「広報紙」係

氏名、住所、クイズの答え、ご意見・ご感想を記載してください。

応募フォーム▶



宇都宮市上下水道局 プレゼント 検索

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

※個人情報、はがきの発送以外には使用いたしません。

※いただいたご意見・ご感想などは、個人が特定できない情報として紙面に掲載させていただく場合がございます。

pickupスポット④

おしどり塚

(宇都宮市一番町 おしどり塚児童公園)

鎌倉時代中期に書かれた仏教説話集「沙石集」の中で紹介された旧跡です。鎌倉時代にこの付近を流れていた「求喰川」で獵師がおしどりを射留めて首を切り落とし、胴体だけ持ち帰りました。翌日、同じ場所でうずくまる雌のおしどりを射留めると、その翼の下には昨日のおしどりの首がしっかりと抱きかかえられていたという伝説が残っています。



おしどり夫婦の深い愛情が伝わってくるね

ウルウル



pickupスポット⑤

滝の井

(宇都宮市滝谷町20番地22 瀧尾神社)

「宇都宮七水」の一つで、滝谷町交差点の近くにありま。江戸時代にはきれいな水が湧き出ていましたが、いまは人工の池になっています。昔は清泉が湧出して泡が出る様子が、馬のいなな鼻きのようなことから「稲鳴きの井」とも呼ばれていたそうです。日照りの時も枯れず、冬でも凍らず、盛夏の時期も暑さを忘れられる水で、人々や田畑を潤していました。



おまけスポット

押切町文化財表示板

(宇都宮市一番町3番地 付近)

上河原通りに面した街路樹の下にひっそりと立っています。この付近は昔から、田川の氾濫によってたびたび土手が決壊していたことから「押切町」と呼ばれていました。



昔の町名に災害の歴史が垣間見えるね。



水と付き合っていく

古来、宇都宮市は池や泉が多く、水が豊富な土地ではありましたが、すべての水源がいつも水質に恵まれていたとは言えなかったようです。水質の悪さが、人を死に至らしめる感染症流行の原因になることもありました。

そのような水質に対する不安解消のため、大正5年に全国で31番目の近代水道施設となる今市浄水場が整備されることとなり、現在の宇都宮市水道の歴史が幕を開けるのです。

水は私たちの身近にあって、生きるために不可欠であり、身体のみならず心さえ癒してくれるものです。しかし、時として感染症や洪水など災害をもたらし、暮らしをおびやかすという皮肉な一面も併せ持っています。私たちはそれを肝に銘じ、正しく災害の記憶を語り継ぎ、防災や危機管理への意識を備えて、水と上手に付き合っていかなければなりません。



事前情報を入手して水の災害に備えましょう!

2019年の田川の氾濫も記憶に新しいところであり、これから梅雨や台風で大雨による被害が予想されます。いざという時に役立つ防災情報メール配信サービスへの登録や、内水・洪水ハザードマップを確認するなどして、日ごろから災害に備えましょう。

栃木県公式

LINEアカウント

登録は

こちら▶



宇都宮市メール

配信サービス

登録は

こちら▶



内水ハザードマップ

宇都宮市 内水ハザードマップ

検索

【参考文献】

「宇都宮の民話」(宇都宮市教育委員会／編1983)「宇都宮の歴史」(徳田浩淳／著／下野史料保存会 1970)

「栃木県謎解き散歩」(福田三男／編2012)「宇都宮市水道局百周年 下水道五十周年史」(宇都宮市上下水道局／編2017)